

風水害に備える

東峰村災害伝承館の視察

令和6年度の防災対策委員会では、8月に地震防災対策セミナーを開催しました。いろいろな分野から参加を頂き、パネルディスカッションで地震防災に対する意見を伺ったところです。しかし、9月に石川県など能登半島周辺で発生した豪雨災害を受け、再度、風水害や土砂災害など減災に対する認識を深めてもらうために東峰村災害伝承館の視察研修を行いました。

この災害伝承館は、九州大学災害調査・復旧・復興支援団が、東峰村の協力のもと、「東峰村災害伝承館」としてオープンをさせたものです。管内では、災害の状況や復興までの記録を撮影した写真などが掲載されており、発生後から復旧・復興までの記録が展示されています。

今回、東峰村で発生した想定を超えた、またいろいろな悪条件が重なり発生した異常気象による災害であったことが説明されました。我々は今後、想像を超えたとか過去に例がないといったことではなく、過去の状況を正しく理解し、正しく被害を想定することで、減災につながっていくと思います。

これからも、これらの教訓を生かした地域の防災活動を進めていきたいと思います。

東峰村災害伝承館の視察

令和6年12月1日（日）

東コミを9時に出発！

- 伝承館に向かう途中のバスの車窓から復旧された河川や保護された法面などを確認
- 伝承館に到着後、災害発生直後の被害状況の記録ビデオを視聴（国交省のヘリ撮影）
- その後、三谷教授から当日の気象状況による線状降水帯の発生状況などの説明があり、台風から変わった温帯低気圧や前線の影響が大きかったこと、また、河川や地形の関係についてビデオを見ながら説明を受けた
- その他、被災された方々の災害発生の前後の様子など、いろいろなことを聞く事によって災害を正しく理解し、正しく情報を得ることが必要であると思いました。



東峰村災害伝承館

東 峰 村 災 害 伝 承 館



○東峰村災害伝承館と三谷教授

三谷教授は、災害や防災に関する分野でご活躍されており、市町村向けの防災システムの構築や地域防災に関する研究を主として活動されています。

三谷教授は、平成29年7月の九州北部豪雨災害で、九州大学災害調査・復旧・復興支援団の団長として被災地に入り、復旧・復興の支援活動などを行われました。このような、豪雨災害の発生直後から復興までの長きにわたり、研究機関としての専門的アドバイスなどの功績が認められ、令和3年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞されました。

東コミでも、三谷教授に協力をお願いしながら、各区の地区防災計画を策定する事が出来ました。令和6年度からは、新たな防災・減災の取組について、三谷教授のご支援のもと、防災・減災の活動を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



◎災害伝承館での研修写真

